

第6学年「図画工作」学習指導案

授業者 堀井 武彦 中村 絃子

2月22日(木) 2階アトリエ 10:00~10:40 話し合い 10:55~11:45

1 題材名 A0128 アート選抜総選挙 (B鑑賞)

2 題材について

本校図画工作部は、造形活動と向き合う身体性の探究を目指し「造形的な学びの心づもり」を研究テーマとしている。一方、新学習指導要領(平成29年6月告示)では、本題材で扱う「B鑑賞」を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」を「よさや美しさなどを感じ取ったりし、自分の見方や感じ方を深め、自分なりに対象や事象を味わうことができるようにすることである。」としている。さらに、本校の新教科「てつがく」は、子どもの日常的な問いに在る自明性を問い直す資質・能力を育むことを目指している。そこで、まず、これらの観点の重なりを意識した題材設定を考えた。

本題材は、グループ毎にLED透写台上に色セロハン等の透過性材料を並べる表現活動に人気投票を行い、投票結果を加味した相互鑑賞を通して子どもの判断を揺さぶることをねらいとしている。一般的に、子どもの表現活動に対する人気投票は、教育育活動として違和感を禁じ得ない。そこで、それを緩和するため、題材名を本学級の学年名「あおい」と在籍数28名を「AKB46」になぞらえたり、接着剤を使用せず構成の流動性を担保したりして、題材のゲーム性を強調してみた。

しかしながら、投票行動には、直感による究極の判断力が反映され、鑑賞対象によって啓発された情動や、言葉では説明しきれない造形的な思考などが働いていると考えられる。そこで、言葉に置き換えることで捨象された認識や直感などとのズレや重なりを味わわせる素朴な手立てとして、投票行動は有効であると考えてみた。なぜなら、言葉で説明しきれない領域にこそ、図画工作の根源的な学びが在るのではないかと捉えているからである。

なお、ほぼ同様の題材を第4学年対象に1学期に実施したので、詳細は「児童教育28」を参照されたい。

3 学習指導計画(1時間目/全1時間)

- 第1次 LED透写台上に光を通す材料でファミリー(生活班)毎に協働して作品をつくる。(10分)
- 第2次 第1回投票(所属ファミリー外のお気に入り作品)後、結果を加味した相互鑑賞を行う。(15分)
- 第3次 リベンジタイム(必要に応じて5分で作品修正可)後、第2回投票を行う。(5分)
- 第4次 第2回目の投票結果を加味した相互鑑賞を行いまとめとする。(10分)

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

「A0128アート選抜総選挙」の活動を通して、造形作品の見方や感じ方を広げる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 透過性材料を使い、ファミリーで協働して、LED透写台上に絵をつくり、iPadで記録する。	・製作時間10分なので、あまり細かな活動はしないように伝える。
2 個人毎に所属ファミリー外のお気に入り作品に投票(桃色用紙)して相互鑑賞する(それぞれの作品のよさや、改善点等について、根拠を示しながら交流)。	・投票結果、作品を投影し、情報共有の場の設定。 ・各投票結果をふまえ、1位と最下位の作品を取り上げ、「1位の作品はどこがよいのか?」「最下位の作品はよくないのか?」「自分の投票判断と比べてどうだったのか。」など根拠を聴きながら、判断を揺さぶる問いかけを心がける。
3 リベンジタイム(5分)後、第2回投票(水色用紙)を行う。	
4 投票結果をふまえた相互鑑賞をしてまとめる。	

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

直感を働かせた投票活動や相互鑑賞を通して、子どもの美意識を揺さぶることができたか。